

「公共施設等総合管理計画」策定内容からの公共施設等最適化事業を行うにあたり考え方の説明を行う。

概要

昨年3月末に策定された「公共施設等総合管理計画」の内容を見ると、公共施設の消滅に主眼を置いた長寿命化計画と施設の総量削減を主とした計画の2つのタイプがある。

これらの事例を見ると、今後地域開発において、PPP・エリマネジメント・FMへの展開が始まっており、今後の地域のまちづくり、エリアマネジメントへの発展が期待される。

ファシリティマネジメントフォーラム2018

(アソ ヒデノリ)

安藤 秀徳 (公共施設FM研究部会長／東京美装興業(株))

2018年2月22日

平成26年4月に策定要請された「公共施設等総合管理計画」の記載すべき事項は、公共施設の現状及び将来の見通し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針施設類型別ごとの管理に関する基本方針からなっている。

基本的な記載事項は

- ① 施設の老朽化、利用状況含めた公共施設等の状況
- ② 総人口や年齢別人口の今後の見通し
- ③ 計画の期間は少なくとも10年以上の計画
- ④ 全庁的な取組体制及び情報の管理、共有
- ⑤ 公共施設等の維持管理、修繕、更新等に関し、中長期的な費用の予測、見込み
- ⑥ 現場や課題に関する基本的事項、認識
- ⑦ 公共施設等の管理に関する基本的考え方
- ⑧ フォローアップの実施方針、対策等

公共施設総合管理計画の概要

計画は長寿命化計画と削減計画を主とした計画に分けられて2つのタイプがある。

自治体名	公共施設（ハコモノ）	インフラ
埼玉県 さいたま市	<ul style="list-style-type: none">・ 施設総量の削減・ 新規整備は行わない・ 施設の更新の場合複合	<ul style="list-style-type: none">・ ライフサイクルコストの削減・ 新たなニーズ対応・ 現場の維持
愛媛県 伊方町	<ul style="list-style-type: none">・ 新規整備は行わない・ 施設総量の削減	<ul style="list-style-type: none">・ ライフサイクルコストの削減・ ニーズに合った新設、改修、更新の実施
熊本県 豊後大野市	<ul style="list-style-type: none">・ 維持管理コストの削減・ 新規整備は行わない・ 施設の更新の場合複合・ 施設総量の削減・ ゾーニング手法の取り入れ	<ul style="list-style-type: none">・ ライフサイクルコストの削減・ 現場の維持

公共施設総合管理計画の概要

計画は長寿命化計画と削減計画を主とした計画に分けられて2つのタイプがある。

自治体名	公共施設（ハコモノ）	インフラ
熊本県 大津町	<ul style="list-style-type: none">・維持管理コストの削減・更新費用の削減・新規整備は行わない・施設の更新の場合複合・施設総量の削減	<ul style="list-style-type: none">・ライフサイクルコストの削減・現場の維持
北海道 石狩市	<ul style="list-style-type: none">・施設総量の削減・新規整備は行わない・ライフサイクルコストの削減・複合、集約、統廃合	<ul style="list-style-type: none">・施設の廃止縮小・維持管理コストの削減

各自治体公共施設の面積削減目標

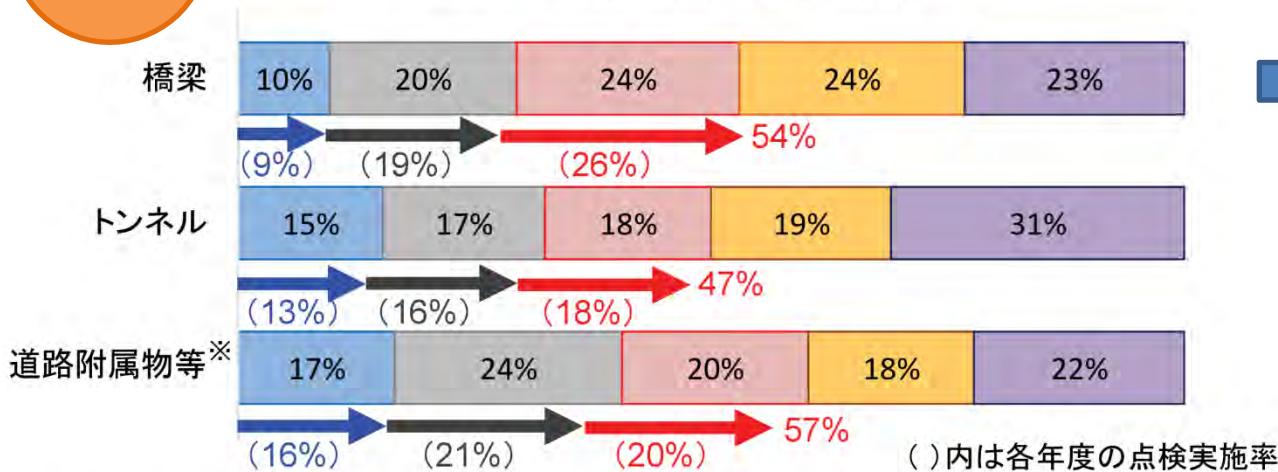
自治体名	削減率	目標年数	10年あたり	算出概要
さいたま市	15%	60年	2.5%	
愛媛県伊方町	20%	10年	20%	
熊本県豊後大野市	明記無い			
熊本県大津町	明記無い			
北海道石狩市	20%	20年	10%	

各自治体資料より（抜粋）

5年に1回点検義務化から3年経過 インフラ定期点検の進捗状況



平成26～28年度の点検実施状況

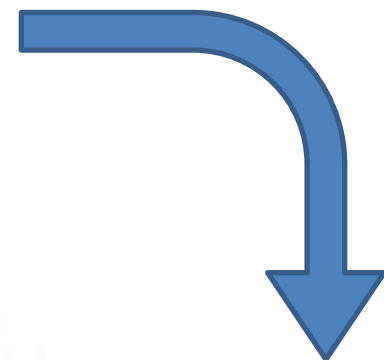


点検計画 ■ 平成26年度 ■ 平成27年度 ■ 平成28年度 ■ 平成29年度 ■ 平成30年度
 点検実施率 → 平成26年度 → 平成27年度 → 平成28年度

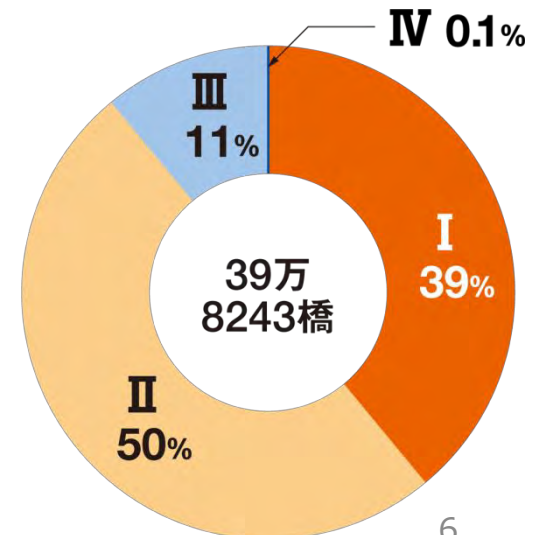
※道路附属物等: シェッド・大型カルバート、横断歩道橋、門型標識等

点検結果、補修が必要とされる施設も多く、修繕計画もままならない、課題が山積み

区分	状態
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。



橋梁を例にとると



公共施設等総合管理計画から考えられる公共施設のあり方

公共施設の施設改善の手法としては、

- ① 管理運営の効率化（ファシリティマネジメント、PPP等）
- ② 施設の長寿命化
- ③ 施設の用途変更
- ④ 民間への活用（貸付、譲渡、コンセッション等）
- ⑤ 跡地の活用
- ⑥ 複合化
- ⑦ 集約化
- ⑧ 分散化

⑥複合化

課題

1. 施設内の運営体制、利用時間が異なる為、管理動線、セキュリティの管理等、定める必要がある。
2. 規定することによりコミュニティ・にぎわいの創出と相反することのないよう行う必要がある。
3. にぎわいの創出等相反する事になる場合、解決する為施設の企画、設計の段階から管理運営の検討が必要

⑦集約化

課題

1. 複数の施設を集約する為、管理者の区分、機能集約後の管理運営体系、整理をどのように行うか、各集約した施設関係の整理が必要

提案

公共施設がいつも簡単に次々と消滅されてますが、しかし公共施設のあり方をもっと真剣に考えるべきと思います。

- ① 公共施設は市民生活を支える施設であり、今後のあり方は市民が主体となり議論すべき。
公共施設がなければ現在の市民生活は成立しない。
- ② 市民は公共施設の運営を積極的に関わるべき。
市民がさまざまな形で公共施設の運営に関わるべきである。
- ③ 公共施設はまちづくりの一環で考えるべきである。
「人口減少→公共施設の統廃合」という単純な考えではダメ。
「公共施設の統廃合→生活が不便→人口減少」の悪循環になる。
- ④ 手を加えながら長く使い続ける。
30年～40年での建て替えの考えからでは無く、多くの市民が使い続けた公共施設は地域の拠点、シンボルとなる。
- ⑤ 地域の都市計画、全域的な再編の中で地域の公共施設が動いている事を考えながら公共施設の再編、配置計画を考える。